レジデントの情景 MY LIFE IN NEW YORK 7

インターナショナルコース？ポストグラデュエートコース？

白　賢 Hyun Baek
ニューヨーク大学歯学部補綴科大学院

真冬の寒さも束の間，ニューヨークはすっかり夏の陽気だ．ストリートでは毎週のようにパレードが繰り広げられ，セントラルパークでは夏の風物詩となっている野外コンサートに観光客が押し寄せている．街の喧噪を横目に，相変わらず週末はずっと図書館に引きこもり，諸々な課題や技工に明け暮れていた．そんな週明けの月曜日，午後はコンサルテーションの担当だった．

患者の主訴は下顎右側大臼歯部のブリッジの脱離．「これまで部分的に治療してきた咬み合わせがおかしい気がする．見た目も気に入らないので，今後は治療せずに済むよう，すべて完全に治してしまいたい」とのこと．口腔内を診査してみると，“とりあえず”の治療を長期にわたって繰り返し受けてきたのは明らかだった．アメリカでもその場しのぎの治療を受けていると，こういう状態になってしまうことが多い．補綴専門医はこうしたケースを「パッチワークトリートメント」と皮肉を込めてよぶ．患者には治療期間がある程度長期に及ぶ可能性と，治療費用の概算を説明したところ，精査を希望したので，次回は確定診断を行うための資料収集を行うことになった．ちなみに，問診の途中，ファカルティが「失礼ですが，美容整形の既往はありますか？」と質問したのには驚いた．それなりに美人の方で，確かに上口唇がアヒル口のようになっていたが，まさか整形していたとは…ファカルティは何の遠慮もない様子だったが，患者は少しはにかみながらこちらをみているし，目のやり場に困る．もしかしたら目や鼻も，この胸も…と変な妄想が膨らんでしまった．

インターナショナルプログラムとは

NYU 歯学部には外国人歯科医師を対象としたインターナショナルプログラムが存在する．特にインプラント科には多くの日本人歯科医師がこれまでも留学していたので，ご存知の方も多いかもしれない．アメリカの歯科医師ライセンスをもたない外国人歯科医師がアメリカ国内で臨床研修を受けられるプログラムは珍しく，私の知るかぎりではタフツ大学，UCLA，NYU の 3 校，そのほか数校で実施されているのみと認識している．

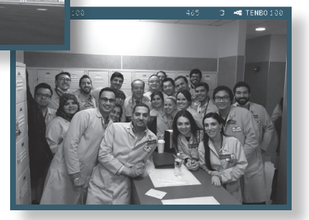
NYU のインターナショナルプログラムの専攻科と2014 年に修了した各科レジデントの人数は表 1 のとおりで，2013-2014 年入学生の 1 年間の学費は US $71,185 であった．その他の詳細は NYU 歯学部のホームページに記載されているので，そちらを参照してほしい（http://dental.nyu.edu/academicprograms/programs-for-international-dentists.html）．

何名のインターナショナルレジデントを採用するかは各科で決められている．補綴科は例年10 名前後を採用していたが，2014 年度はレジデント 6 名，フェロー 1 名であった．レジデントは世界中から集まっており，出身国は，ポルトガル，ギリシャ，メキシコ，サウジアラビア，タイ，リビア，マレーシア，スペイン，台湾，ケニアなどとなっている．

インターナショナルレジデントコースと私が属しているポストグラデュエート（PG）コースのレジデントの違いは，大学正規のコースか否か，大学院への留学か語学留学と言えばわかりやすいかもしれない．さらにいえば，PG コースを修了して実技試験とボード試験（歯科医師国家試験）をパスすれば，アメリカの歯学部を卒業せずに歯科医師ライセンスが取得できる．また，テキサスなどのかぎられた州ではあるが開業も可能だ．さらに PG コースは正規の大学院で，Certificate や大学のコースによっては Master や PhD の学位が同時に取得可能だ．一方，インターナショナルは外国人向けのコースなので，アメリカの歯科大学で正規のプログラムを終えたことにはならないが，定員に余裕があればどこでも希望の科に入学できる．

表1　2014年にNYUの各科を修了したレジデントの人数

診療科	人数
Comprehensive Dentistry	19
CTOR（矯正科リサーチセンター）	3
Endodontics	7
Esthetic Dentistry	7
Implant Dentistry（2年コース）	14
Oral Medicine & Orofacial Pain	4
Oral Surgery	6
Orthodontics	13
Periodontics	8
Prosthodontics	10
Pediatric Dentistry	4
Teaching in Dental Education	5



補綴科のインターナショナルコースは PG コースに比べて，講義数が少なく，論文抄読のレクチャーが課せられないことが大きな違いで，クリニックでのセッションも 7 回と少なく（PG レジデントは 10 回），1 年間でこなさなければならない患者のケース数（リクアイアメント）も課せられない．1 年間で治療が終わるような簡単なケースはインターナショナルに配当され，難症例は PG のレジデントが担当する．たとえば，先ほど紹介したようなフルマウスのケースは PG のレジデントが治療を行う．

ところで，「インターナショナルプログラムに留学する価値はあるのか？」という質問は非常によく聞かれる．結論から言うと，Yes であり，No でもあるのだが，もし経済的，時間的に可能であるならば，ぜひチャレンジしてみてもよいのではと思う．もちろん，PG コースは 3 年間の正規プログラムなので，その厳しさは言うまでもなく，単純に比較することはできない．ただ，インターナショナルコースも PG コースと同じように患者が配当され，同じファカルティの指導の下，臨床研修を受けられる．そして，将来 PG コースへの入学を考えている者にとっては，ネットワーキングや環境に慣れるための有意義な機会となる．

実際，NYU 補綴科のインターナショナルコースは，PG コースへの登竜門となっていると言っても過言ではない．今年の補綴科 PG レジデントは 5 名いるが，そのうち 1 名が昨年の補綴科インターナショナルのレジデント，1 名が補綴科インターナショナルフェロー，2 名が Comprehensive dentistry のインターナショナルレジデント，1 名がインプラント科フェロー修了者（彼はインターナショナルコースの補綴科も以前に修了済）となっている．PG コースへの入学を希望しているなら，一つのきっかけ，PG コースへの足がかりになることは間違いないので，そういう意味ではチャレンジしてみる価値はある．

現在，補綴科レジデントはインターナショナルを合わせて総勢 30 名が在籍している．ラボも狭く，チェアが足りなくなって右往左往したり，ファカルティのチェックを受けるのに順番待ちの列ができることもあって，すべていいことばかりではない．だが世界中から集まった仲間との切磋琢磨を通じて培った経験や，世界中に広がるネットワークは，今後の歯科医師人生にとって何物にも代え難い財産になると断言できる．また，なんといってもニューヨークという街は，世界中から集まった人々の夢と挫折で成り立っているような場所である．インターナショナルコースという比較的時間に余裕のあるなか，世界中から集まった人々の熱気とエンターテイメントに溢れたエキサイティングなこの街で，休みの日には家族や友人らとミュージカルやオペラ，美術館をみて歩き，メジャーリーグやフットボール三昧の生活を送るのも悪くない．

ご注意を

インターナショナルコースとは別に，海外で 1 週間程度の研修セミナー等も多数開催されている．全国に志しを同じくした仲間を作ったり，留学の模擬体験という意味では有意義だろう．ただし，あくまでも卒後研修会の一つに過ぎないので，宣伝はほどほどにお願いしたい．さも正規の大学院を修了したかのような院長のプロフィールを，ご自身のクリニックのホームページ等にスクラブを着て写真つきで掲載するのはいかがなものか．たまにみかけるが，それは誇張ではなく度が過ぎると「学歴詐称」になるので，お忘れなきように．